

津波浸水エリアの 保育園・幼稚園の

なんをさける

避難対策の考え方



愛知県立大学・看護学部
感染制御学
保育園・幼稚園危機管理学
清水宣明



保育園・幼稚園とは



乳幼児の大集団

さまざまな子

マンパワー，予算が少ない

無理が効かない

想定外が多発する

ひとりの損失も許されない

保護者も守る必要あり

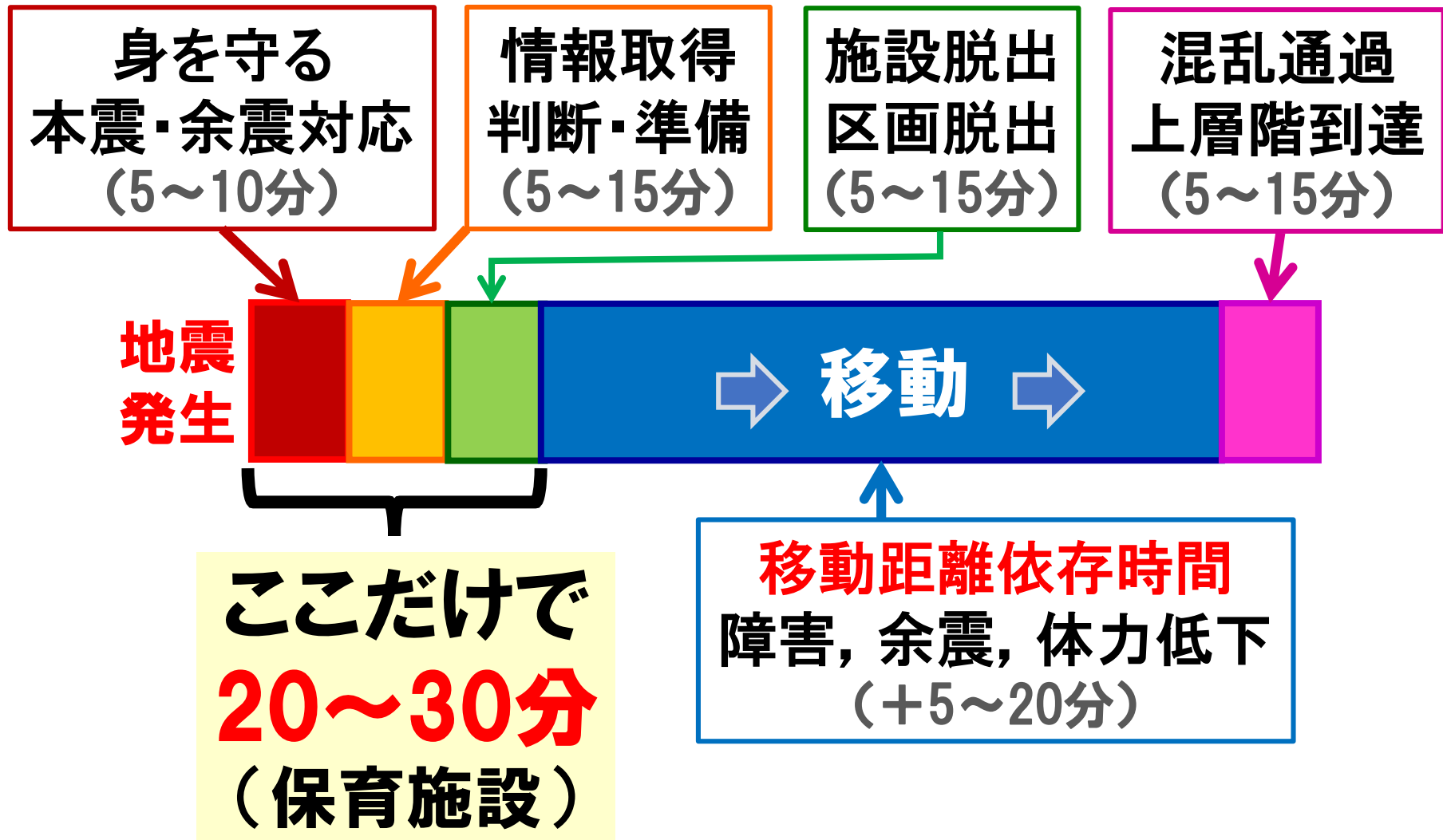


災害は**防災訓練**の避難を許さない

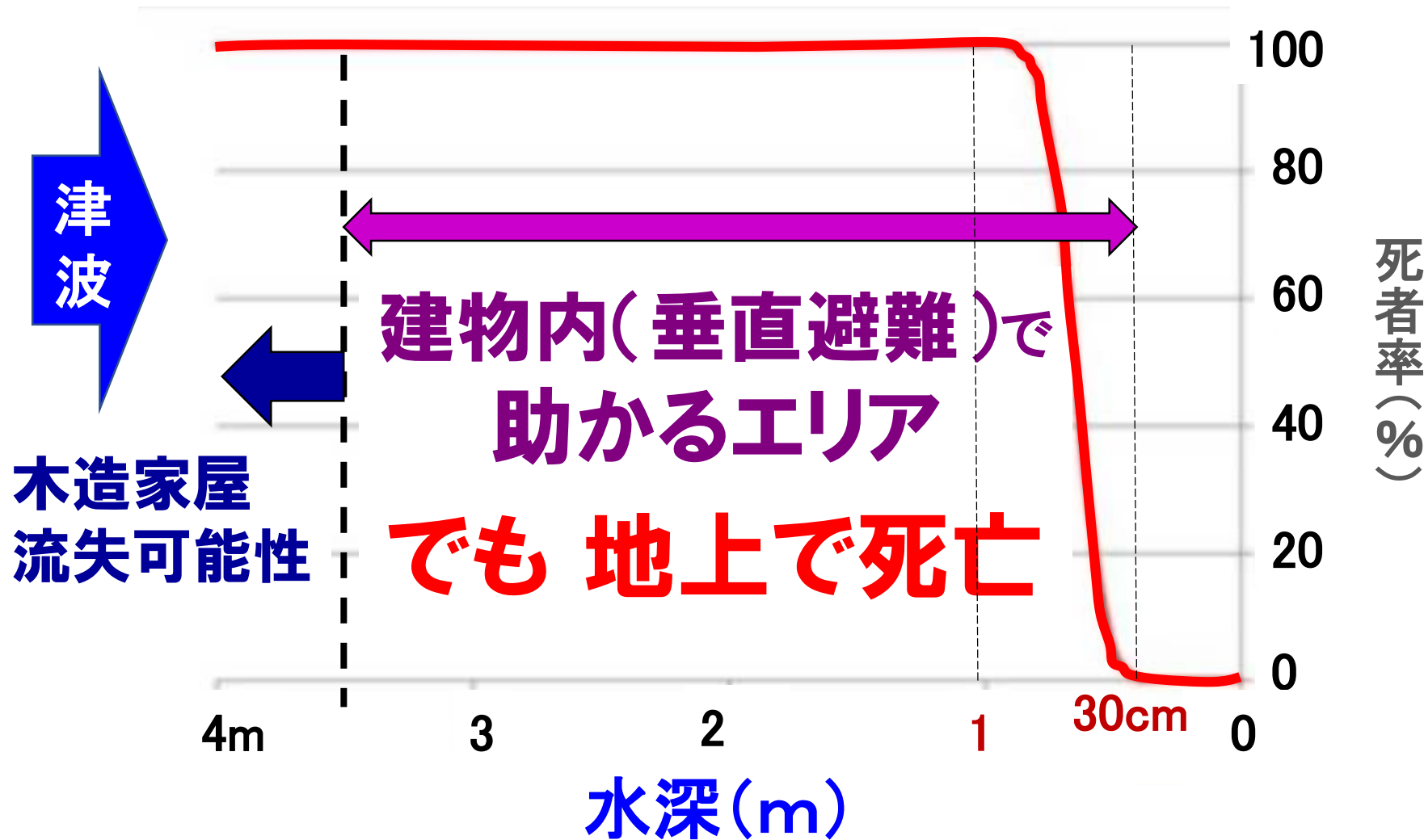
- **予想可能/不可能な通過障害の発生**
家屋破損 落下物 地面変形 液状化 火災
- **景観変化による方向・距離感覚不全**
夜間 停電 悪天候 倒壊 不慣れ 思込み
- **突発事象の発生**
余震 悪天候 ケガ 病気 体力/精神力低下
- **大きな精神的ストレス**
恐怖 不安 躊躇 油断 あせり あわて
- **情報の減少・途絶**
停電 操作不慣れ 紛失 故障
- **災害弱者の顕在化**
家族 知人友人 出会い 支援 良心 責任感



避難に必要なのは 移動時間だけではない！



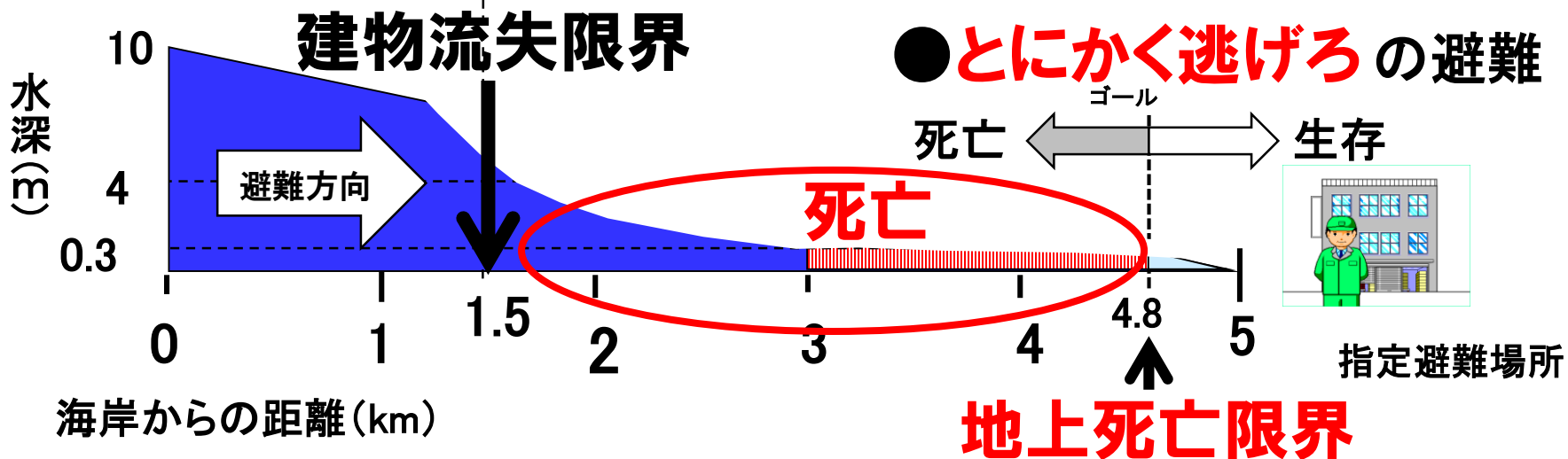
津波浸水の深さと死亡率の関係



内閣府が設定した浸水深と死亡率の関数

平野

●建物に入る避難



10mの津波 5キロ先まで到達

完全な浸水エリア脱出は 長い距離が必要

●でも どんどん水深は 浅くなる！

途中の建物に入れば はるかに小さな労力で生残
指定避難場所を あくまで目指して死亡

津波・洪水避難の大原則



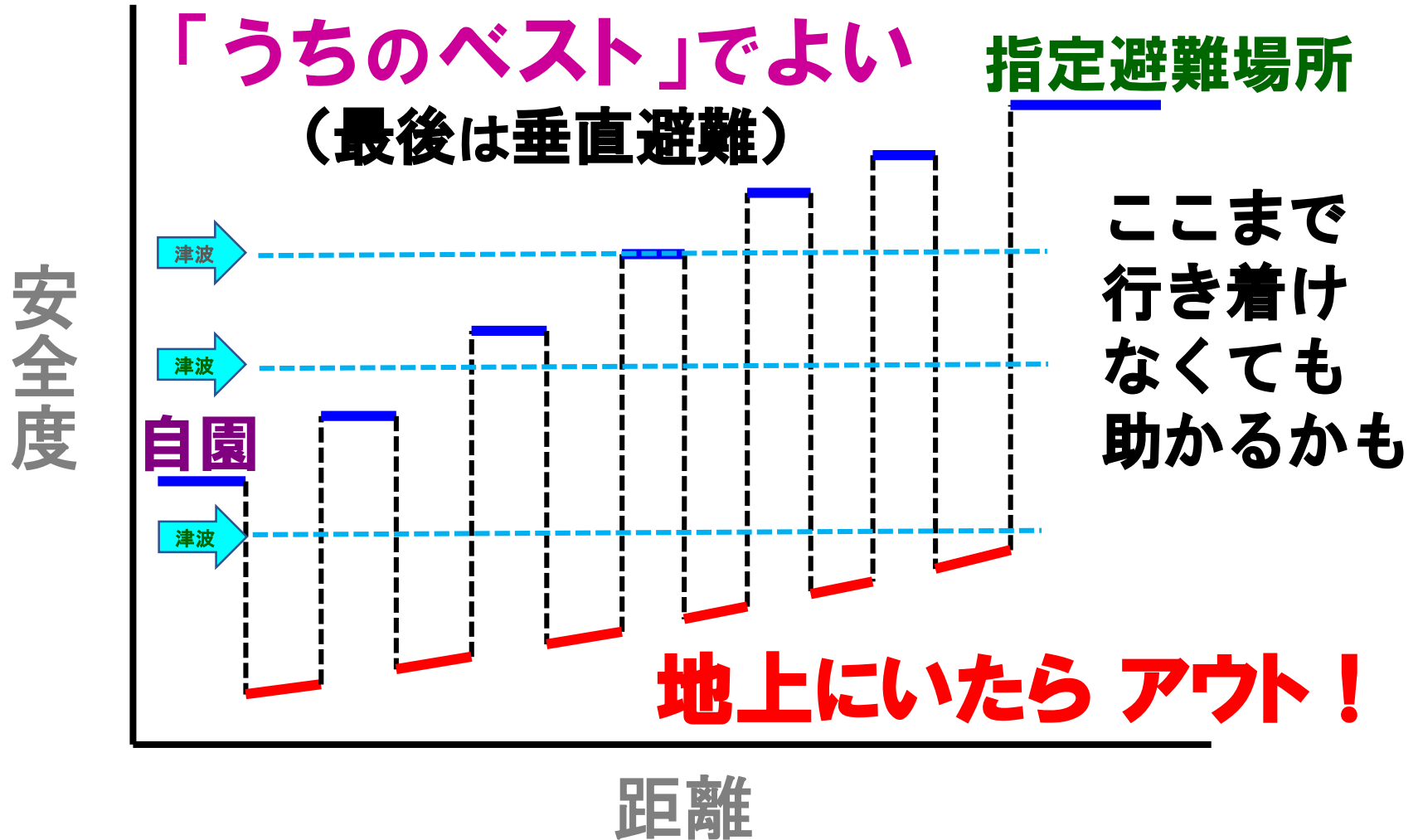
絶対に

地上で遭遇しない！

水の襲来時（到達予想時刻）に
地面の上にはいない

水が来る前に どこかの建物に入ろう！

水平避難 ⇒ 最後は垂直避難



指定避難場所の意味を理解しよう

“目指さなくてよい” “逃げなくてよい”
という意味ではない！ けれど

高い安全の施設だが

全員が到達できることを保証できない

「保育施設より安全」とは限らない

“ここに来なければ助からない”
という意味ではない！

避難場所の「候補のひとつ」

災害弱者の避難場所は **事前に** 決める

1. **許容時間内**にどれくらいの**距離**を移動できる？
2. その範囲で **避難候補**(自園を含む)はどこに？
3. その中で **最も安全度の高い候補**は？

それが **あなたの第一(ベスト)避難目標**

4. 第一が困難なら **第二, 第三(ベター)目標**は？

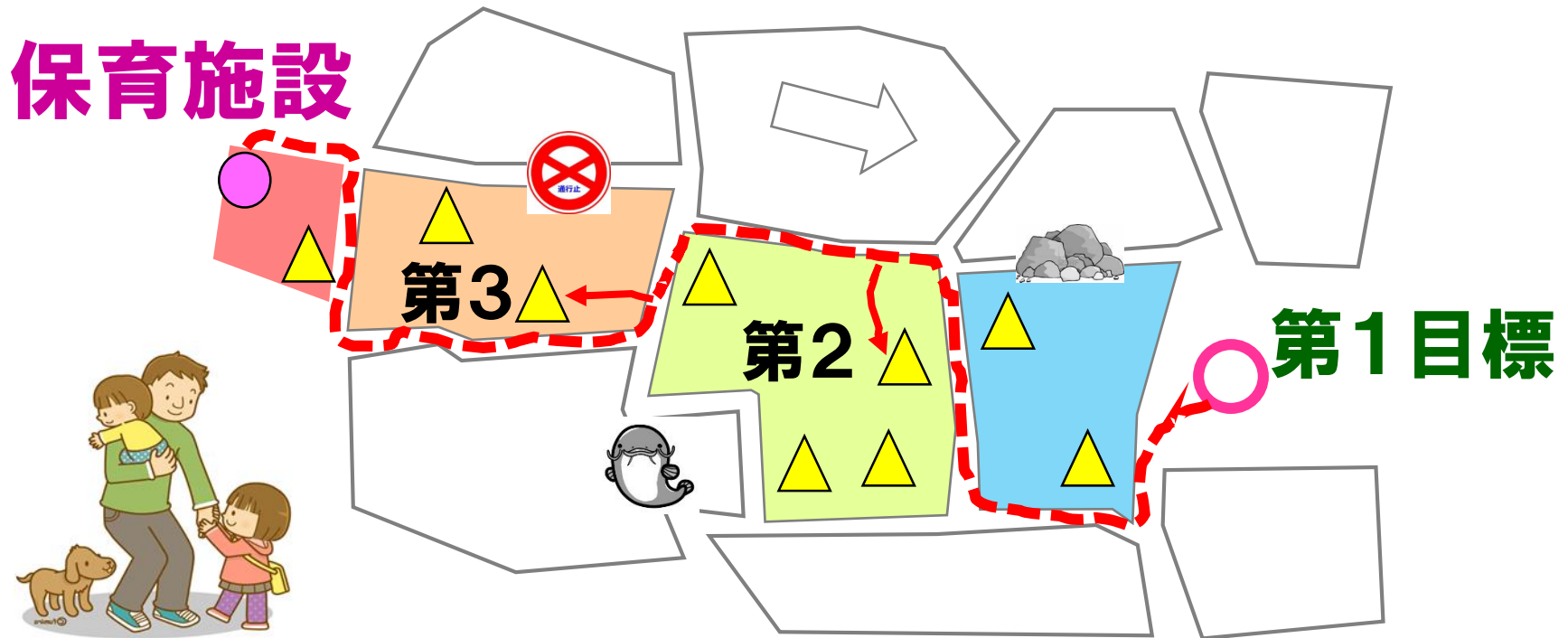
ただし, 「援護は来ない」が基本



それぞれの園独自の避難プラン

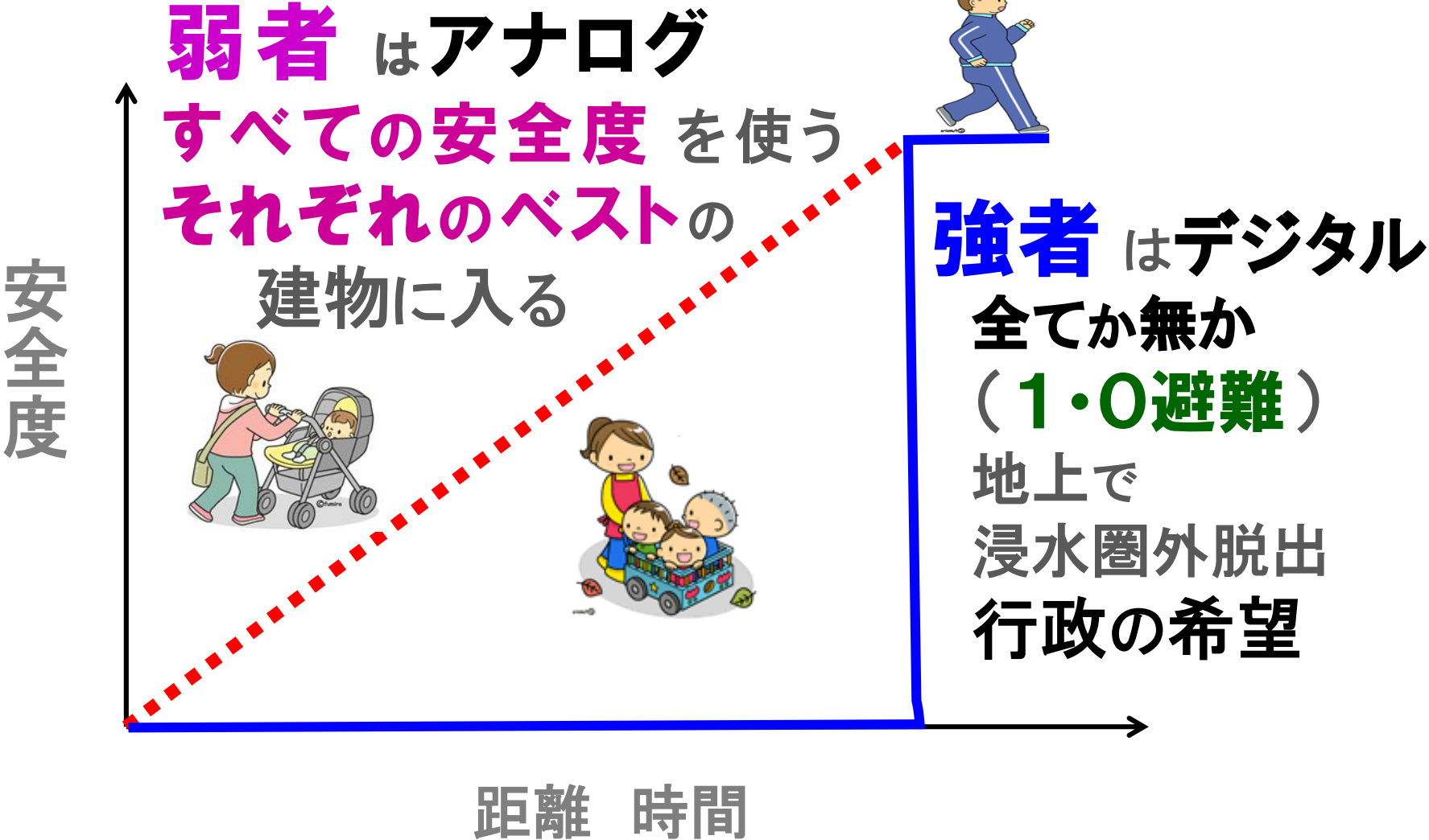
保育施設のベスト/ベター避難のイメージ

最後まで地上でがんばるな！
あきらめが肝心！ 建物に入れ！



“無理しないで大丈夫！常にバックアップがある”

弱者と強者の避難方針は違う



避難手順の**基本**

発災



“間に合う”既定目標
生き残ることが**最優先**

わたしのベスト・ベターでよい

一次避難

孤立は怖くない（応急食事）



危急存亡の危機の消失
あせらず、よりよい環境へ

二次避難

避難生活（炊き出し）

最初から「避難場所ありき」ではない！

避難場所 は
子どもに合わせて 保育施設が決める

人間には それぞれの限界がある

「わたしのベスト・ベター」でよい
想定の大小は 関係ない！

限界を越えたら？ それは 運命

「保育施設の**対策をする**」とは

それぞれの施設や個人

「自分の **ベスト** や **ベター**」が

わかる 使える 活かせる

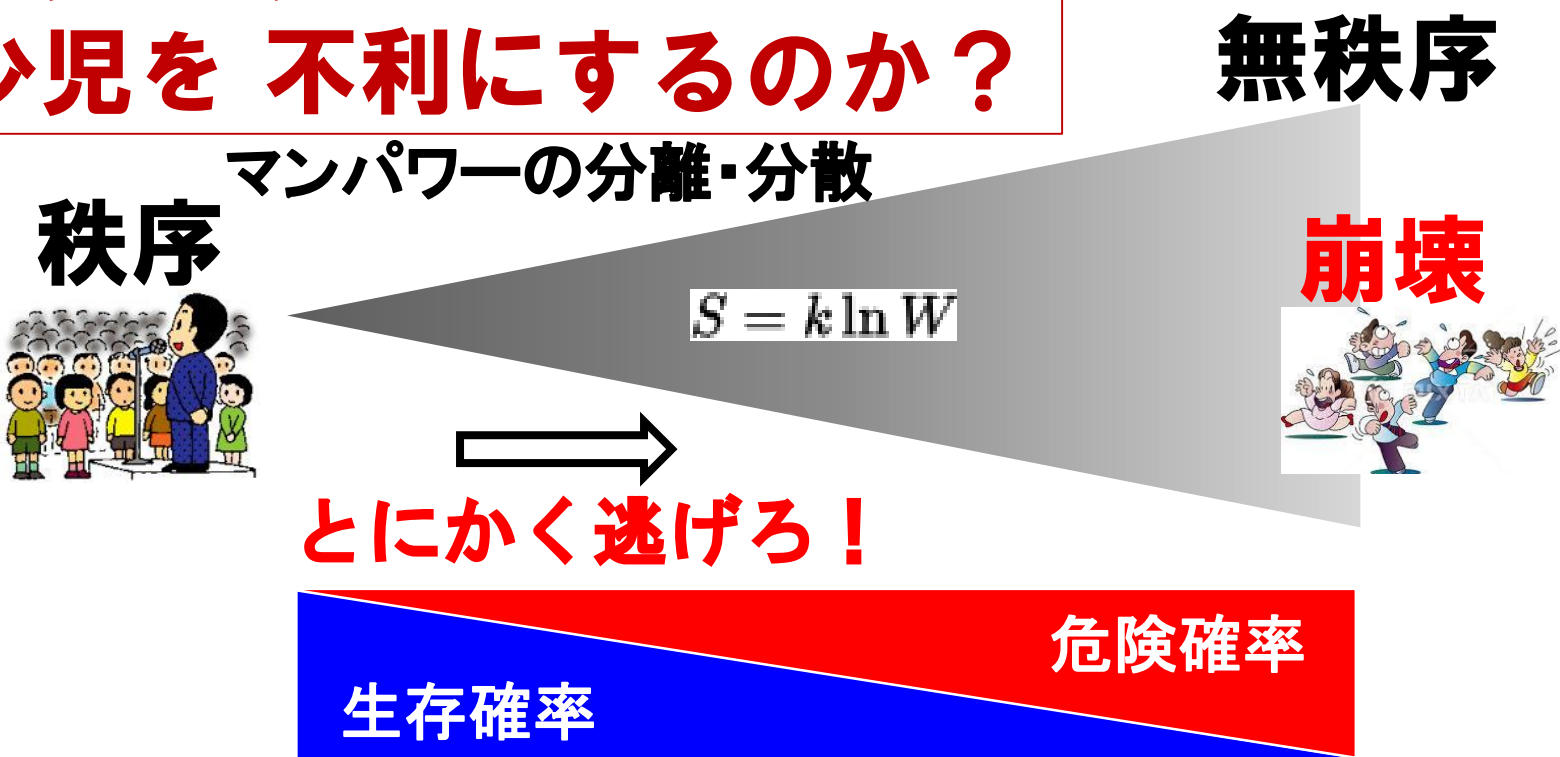
環境を整備

みんな同じにすることではない！

これが都市共生防災

保育施設の避難は 生存競争ではない！

年長児を 先に行かせる？
年少児を 不利にするのか？

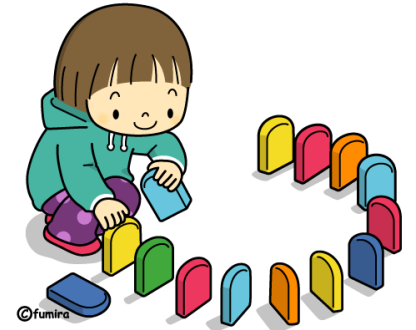


保育施設に

「ひとりでも多く助かるように」は 通用しない！
全員が助からない避難は、避難ではない！



決まった手順



信頼と安心

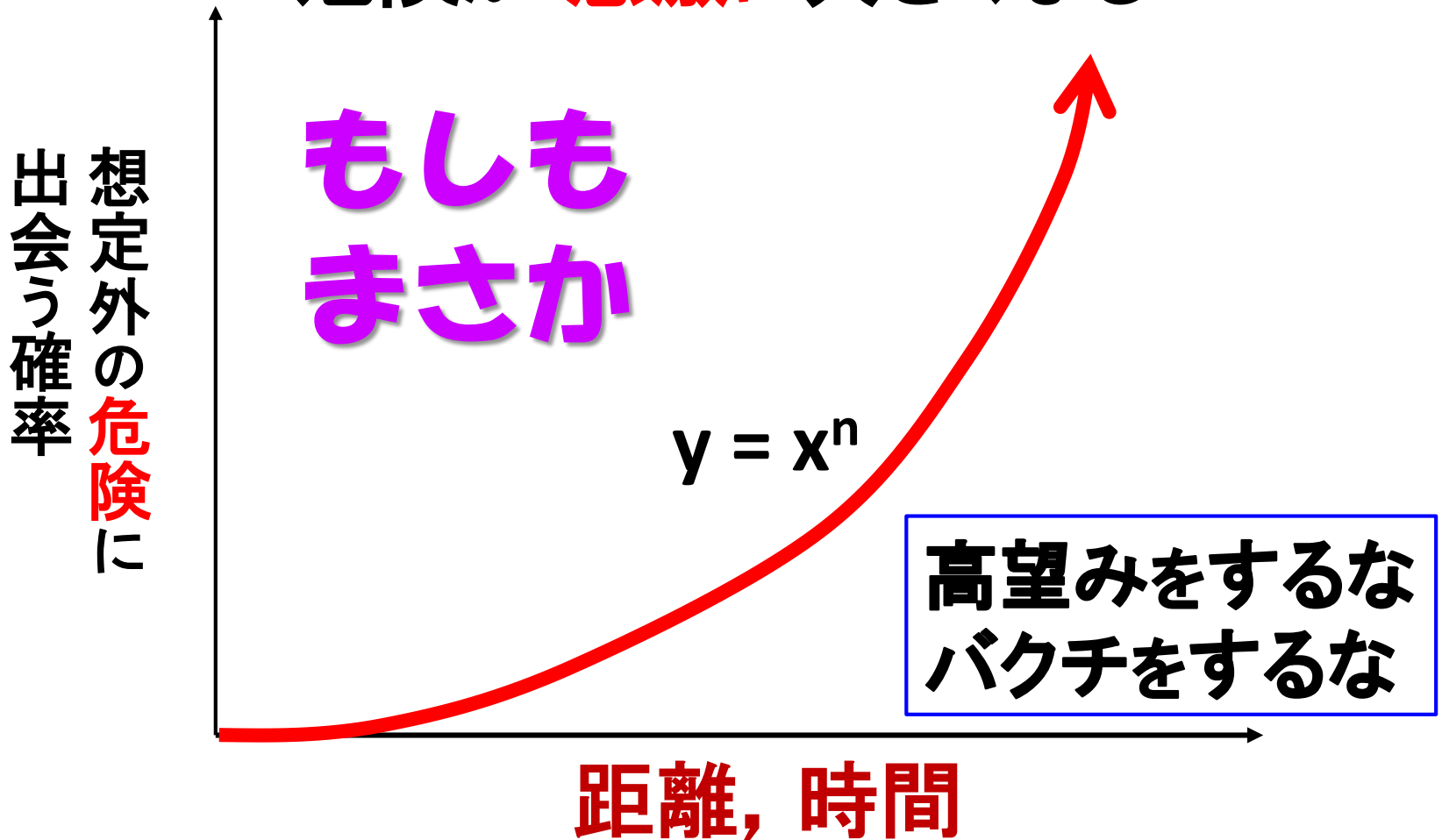


普段からの馴染み



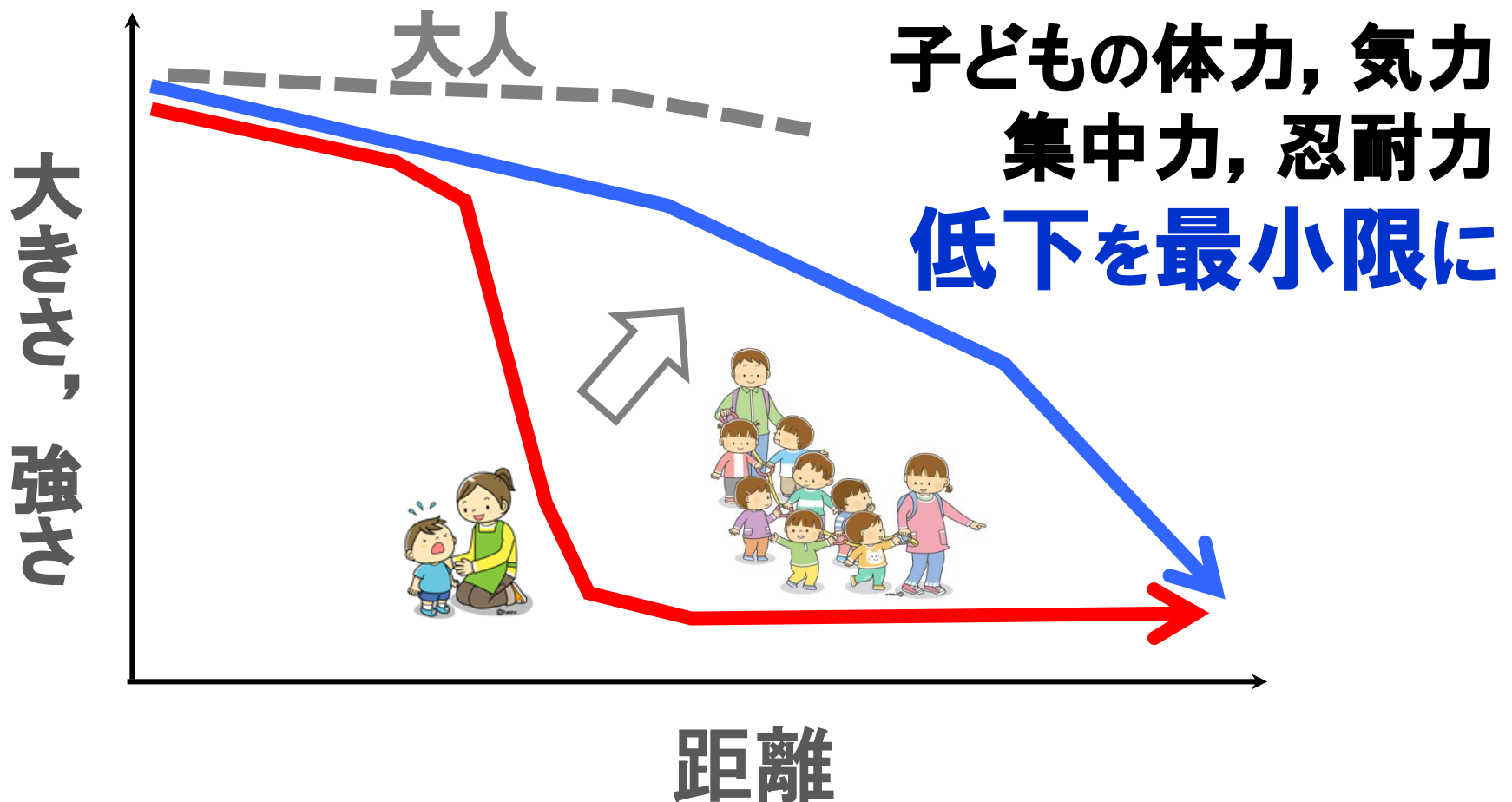
避難距離と危険遭遇の関係

避難場所まで遠ければ遠いほど
危険が **急激に**大きくなる



避難移動と 子どもの力の変化

短時間・短距離で避難完了させる



力の低下を防ぎながら 先に進もう

休み休み

集合 落ち着き 回復

保育施設



©fumira - 2019/25/18



空き地



広場



避難場所



©fumira



©fumira

だいじょうぶだよ

だいじょうぶだよ

それって ほんとうに **大丈夫？**

行ってみたら



入れない！
間に合わない！
居られない！



photo.jp - 18142659

シャシにならない！

それで “逃げ遅れた” なんて・・・

子どもは 末端から冷える

タオルケット
シーツなど
(全体)

ぼうし

エマージェンシー
シート (全体)

顔、首筋を
おおう

マフラー
(タオル)

マスク

ジャンパー

手を
おおう

手袋

タイツ

足を
おおう

ズボン

靴下

集合
(羊玉)

マット

足にカイロ

おしりを保護する

蒸れにも注意



タオル(2) パンツ(2) ソックス(2) シャツ(2) タイツ(1)



常備薬
(指示書付き)
カイロ、ひえぴた

水(300ml)

手袋(1)

予備袋(2) マスク(2) ティッシュ(3) あめ(1) マスコット(1)

もしもし巾着

(個人用緊急用, Aはアレルギーあり)



背負い紐は
ストッパー付きで
長さ調節可能

総重量 1.0kg
枕や座布団にもなる

施設内外避難用

1セットあると安心！

普段の**買い置き** それが**備蓄**

災害用に **特別なものは必要ない！**

少しだけ **買い置き** の**量**を多めに

熱がなくても
食べられる



災害発生時
賞味期限内
ある程度の量
あればよい

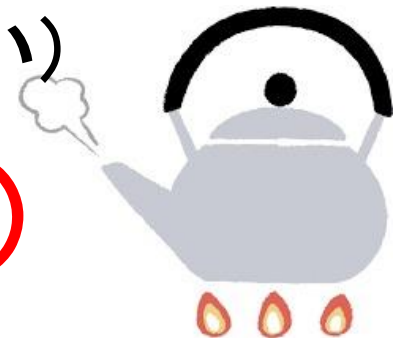
災害時の非常食は **スープ** を基本に

スープ = **具材** + **水分**



- 水で作れる(煮てもよい)
 - 具材**: インスタント麺, 米菓, シリアルなど
 - 水分**: 水, 調味料, 味噌汁, ジュース, クリープ
- **同時に, 水が摂取できる**
- **離乳食にもなる**
- 材料がふやけて「**がさ(量)**」が増える
- 幼児や高齢者も 食べやすい(やわらかい)

最低限の熱源も必須 (お湯)



好きなものでよい！

きれいなものは 備蓄しない

つらいときくらい
大好きなものを 食べよう！

子どもの基本備蓄は **おかし**

警報 = “すぐにお迎えを” ？

大雨警報 = 山に入る？

警報 “ここは危険” という 公的宣言
“命を守る行動を！” という意味

保護者を 危険地帯に入れてよいのか？
レスキュー隊ではない！

保護者に事故が起こったら、責任を問われます
警報 が出ていたのだから

一晩か二晩の **籠城戦** を準備 (どうせなら 楽しく)



保護者のお迎えは

警報や勧告が解除になってから

保護者との共通理解が必要

子どもはお泊りを**怖がる** **ないしょ!**

子どもの命を守る避難とは

“がんばる”という状態に
入れてはならない！

それには どうするか？

それが 対策





理想



子どもたちは

普段通りの 気持ち 行動

ことさら

発災とピンチを 意識させない

訓練が必要なのは 大人

保育園・幼稚園の災害対策の原則

1. **弱児を基準**として 全体を組み立てよ

どの子も 簡単に弱児になる



2. **冗長性 (redundancy)**を担保せよ

「他もある」「次もある」は 余裕を生む

3. **理想にこだわらず, 自園の力を知り**
がんばらせるな

生きていれば なんとかなる!

防災の目的は「安心と自信」

“怖がってもよいことはなにひとつない！”



委縮 まっ白 判断・動作の間違い
楽しくない 他人任せ

必要なのは 考えなしの恐怖ではなく

すべきことがわかる **自信**

恐怖ではなく **懸念**



災害対策は 精神論じゃない

仕組み(システム)です

不安, 恐怖, 危機感は

必要ありません!

あなたはあなたなり
ご安全に！



ありがとうございました！

愛知県立大学・看護学部